

18
7-17
聖徒伝 44

「主がすべてを 支配される」

民数記21～25章

青銅の蛇・バラムの預言

民数記④

【今日のアウトライン】

0. ふりかえり

I. 青銅の蛇 三度の戦い 21章

II. バラムの預言 22～24章

III. バラムの罫 25章

IV. まとめと適用

祝福か 呪いか

求められる選択は 二つに一つ



【アブラハム契約とは？】

聖書全体を貫く、大原則

神の世界回復と人類救済計画の柱

【三つの主な条項】

①子孫の約束

②土地の約束

③祝福(地上の諸民族の祝福)の約束

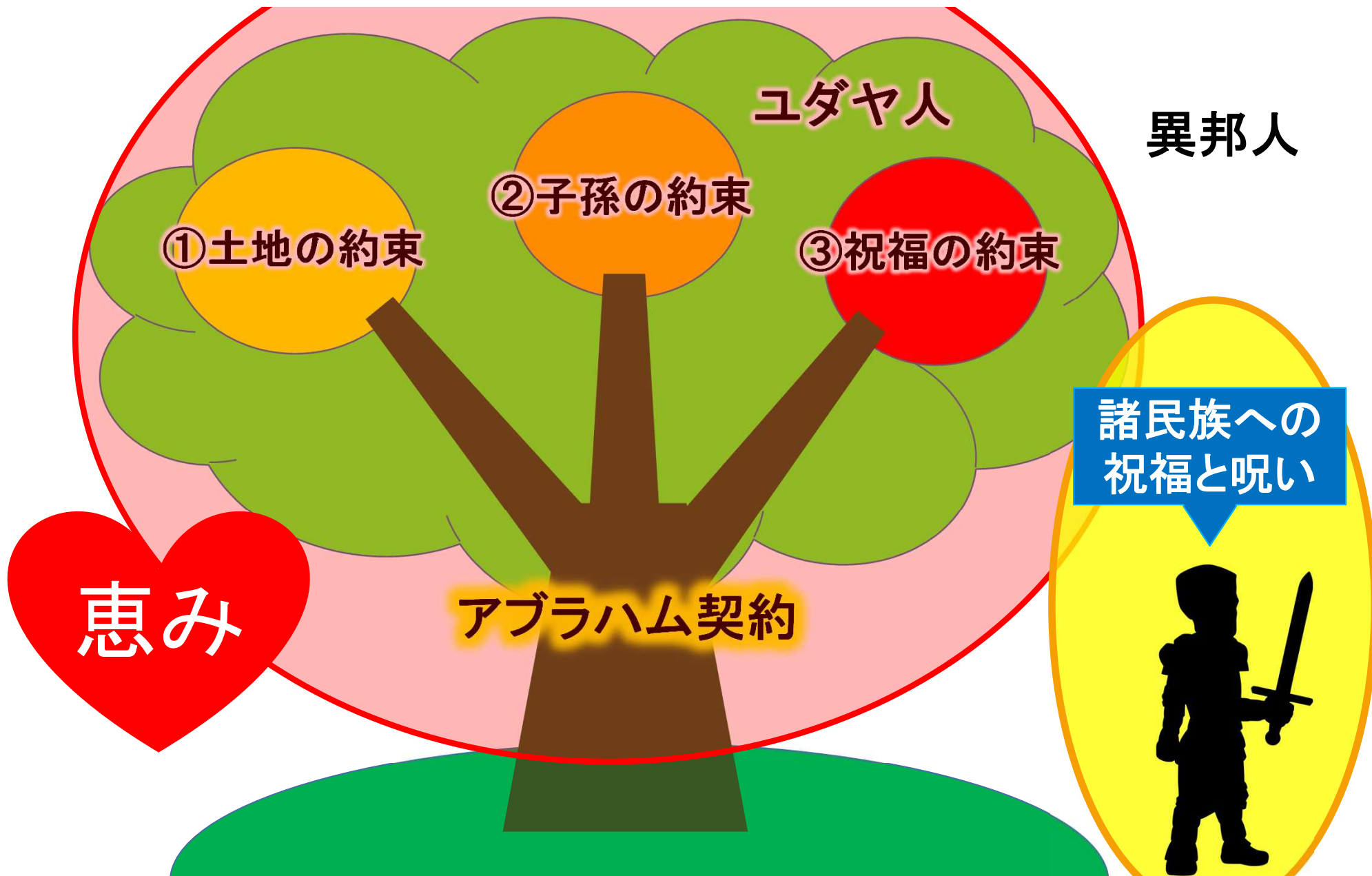
※付帯条項 ...祝福と呪い。イスラエルの生存保証。

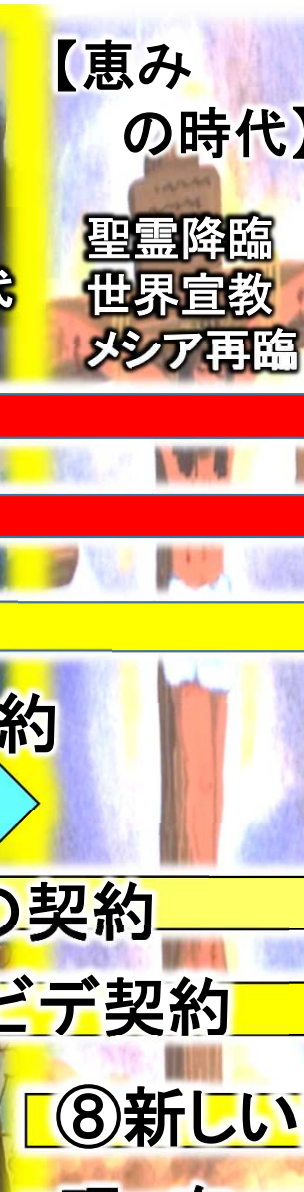
※しるし ...割礼

イスラエルを
守り導く土台



【アブラハム契約】





【無垢の時代】

【良心の時代】

【人類統治の時代】

【約束の時代】

【律法の時代】

【恵みの時代】

【御国の時代】

天地創造

墮罪
~大洪水

バベルの塔事件

アブラハム
~ヤコブ

イスラエル王国時代
メシア初臨

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

神の約束が、人類と世界の歴史を導く!!

過去

現在

未来

【モーセの律法 十戒とは？】

★モーセの律法(モーセ契約・シナイ契約)

- ・シナイ山で、イスラエルと結ばれた契約
- ・「十戒」がその中心 ...全部で613の条項
(出20:1～申28:68)

★モーセの律法の七つの特徴

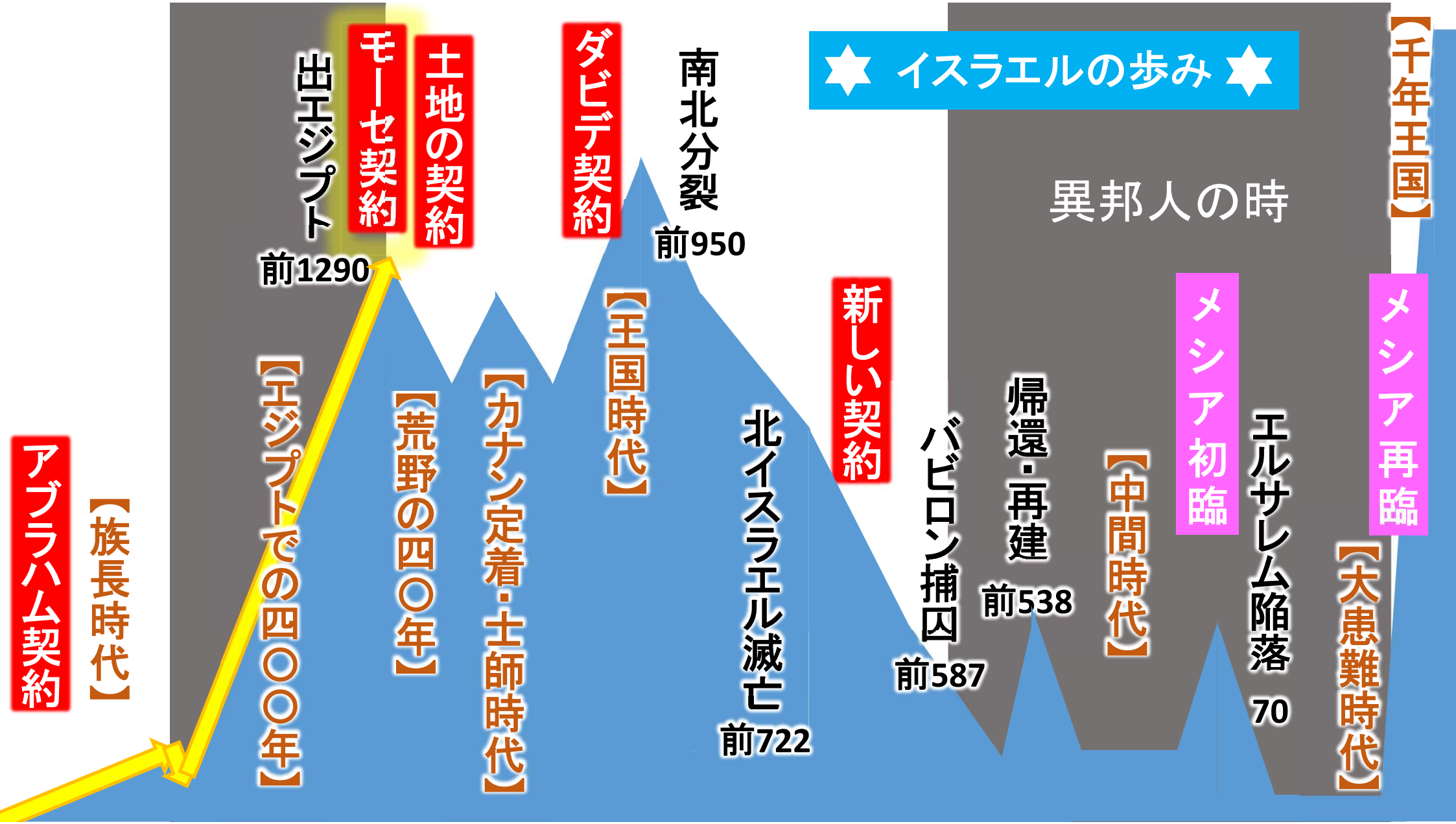
- ①救いの方法ではない。
- ②神が聖であることを示す。
- ③旧約時代の聖徒たちの行動基準である。
- ④人の罪を示す
- ⑤人にもっと罪をおかさせる力となる。
- ⑥人を信仰へと導く
- ⑦今現在は、すでに役目を終えた。



律法は、条件付き契約

従えば、祝福。破れば、呪い

★ イスラエルの歩み ★



アブラハム契約

【族長時代】

エジプトでの四〇〇年

前1290

出エジプト

モーセ契約

土地の契約

【荒野の四〇年】

【カナン定着・士師時代】

ダビデ契約

【王国時代】

前950

南北分裂

北イスラエル滅亡

前722

新しい契約

前587

バビロン捕囚

前538

帰還・再建

異邦人の時

【中間時代】

メシア初臨

エルサレム陥落

70

【大患難時代】

メシア再臨

【千年王国】

【イスラエルの荒野の歩み】

■エジプト → シナイ山まで

3ヶ月

■シナイ山での律法授与

- ① 一度目 40日間
- ② 金の子牛事件
- ③ 二度目 40日間

3ヶ月

■幕屋建設

(律法の学び?!)

6ヶ月

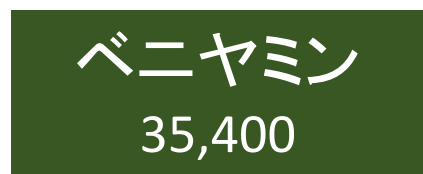
■点呼・出発 実践的訓練!!

1ヶ月後



【イスラエル全部族の隊列】

北 ↑ 157,600人



ゲルシヨン



アロン
モーセ



東 → 186,400人

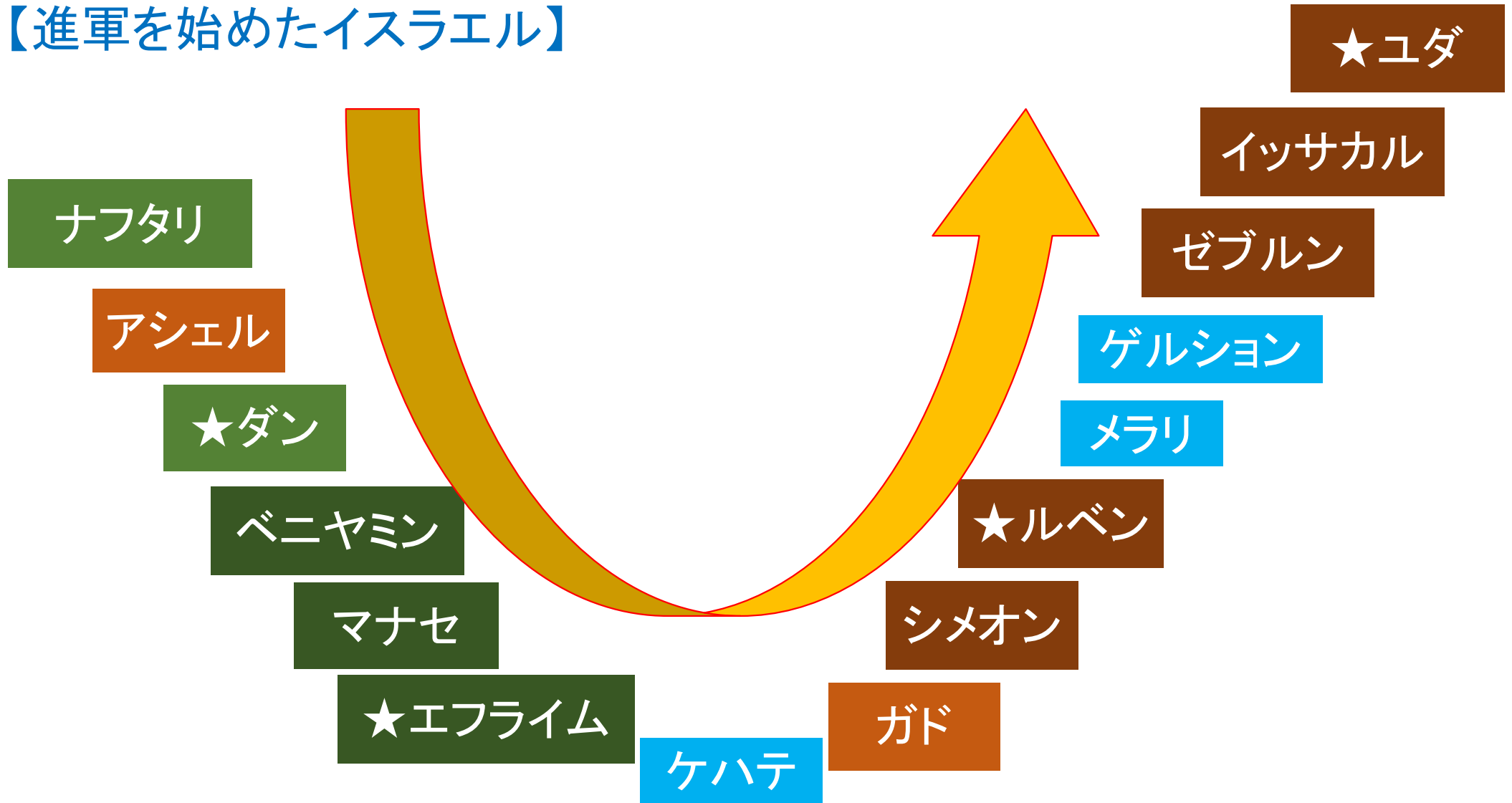
108,100人



南 ↓ 151,450人

- レアの子
- レア(ジルパ)の子
- ラケルの子
- ラケル(ビルハ)の子

【進軍を始めたイスラエル】



【カデシュ・バルネア事件】 民14章

- 12部族の代表12人が偵察に派遣され、40日後、土地の豊かな産物を手に帰還。
- しかし、彼らは、堅固な城壁に住む強靱なカナン人への恐怖に捕らわれていた。
- 民を巻き込んで、モーセへの不満が爆発。エジプトに帰ろうと叫ぶ民に、神の裁きが!!
- この世代の民は、40年荒野を放浪し、死に絶えることとなった。
- 神を信頼したヨシュアとカレブだけが、約束の地に入ることをゆるされた。



【荒野の40年】

- 放浪の間にも、民の背きは絶えなかった。コラの反逆は、生きたまま陰府に飲まれる最悪の裁きを招いた。
- 40年を経て戻ってきたカデシュで、水がないと騒ぎ立てる民に激怒したモーセは、主の命令に背き、岩を二度打ちたたいてしまう。
- これにより、モーセも、約束の地に入ることができなくなってしまった。
- 姉アロンと兄モーセも、荒野で死んだ。



I. 青銅の蛇 三度の戦い 民数記21章



【40年ぶりの戦い】 民数記21:1～3

■ イスラエルは、カナン南部のネゲブと衝突した。

21:2 そこでイスラエルは【主】に誓願をして言った。「もし、確かにあなたが私の手に、この民を渡してくださるなら、私は彼らの町々を聖絶*いたします。」

21:3 【主】はイスラエルの願いを聞き入れ、カナン人を渡されたので、イスラエルはカナン人とその町々を聖絶*した。そしてその場所の名をホルマと呼んだ。

* **聖絶(ヘルマ)** ...分捕らず、完全に滅ぼすこと。
神の裁きの現れ。

■ カナンの裁きの器として、イスラエルが用いられていく。



【民の不平】 民数記21:4～6

彼らはホル山から、エドムの地を迂回しようとして、葦の海の道*に旅立った。しかし民は、途中で我慢ができなくなり、神とモーセに逆らって言った。

「なぜ、あなたがたはわれわれをエジプトから連れ上って、この荒野で死なせようとするのか。パンもなく、水もない。われわれはこのみじめな食べ物*に飽き飽きしている。」

* アカバ湾沿いの道

* マナ ...40年、イスラエルを生かしてきた
天からの奇跡のパンのことを!!



【燃える蛇の裁き】 民数記21:6～9

そこで【主】は民の中に燃える蛇*を送られた。蛇は民にかみついたので、イスラエルのうちの多くの者が死んだ。

民はモーセのところに来て言った。「私たちは【主】とあなたを非難したりして、罪を犯しました。どうか、蛇を私たちから取り去ってくださるよう【主】に祈ってください。」モーセは民のために祈った。

* **毒蛇** ...焼けるような苦痛をもたらすため。

■ イスラエルは、はっきり悔い改めて、モーセに、神へのとりなしを願った。

明確な悔い改めは始めて?!



【青銅の蛇】 民数記21:6～9

すると【主】はモーセに言われた。「あなたは燃える蛇を作り、それを旗ざおの上に付けよ。かまれた者はみな、それを仰ぎ見れば生きる。」

モーセは一つの青銅の蛇を作り、それを旗ざおの上に付けた。蛇が人をかんでも、その人が青銅の蛇を仰ぎ見ると生きた。

■ 青銅の蛇は、メシアの型・影

「ヨハ 3:14 モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子も上げられなければなりません。」

- 青銅の蛇は、毒はないが、毒を癒やす。
- メシアには、罪はないが、罪を赦す。

【救いの原則】
ただ、キリストを仰ぎ見て
福音を信じて救われる!!



【モアブ人の地へ】 民数記21:10～20

- 悔い改めたイスラエルは、アラビア半島の荒野でも主に守られ、井戸を与えられ、祝福された。
- モアブ人の土地にさしかかった。モアブは、ロトと娘の間に生まれたモアブを先祖とする民。

21:14～15 それで、『【主】の戦いの書』*にもこう言われている。「スパのワヘブとアルノンの谷川とともに、アルの定住地に達する谷川の支流は、モアブの領土を支えている。」

* 主の戦いの書 ...現存しない。



【アモリ、バシヤンとの戦い】 民数記21:21

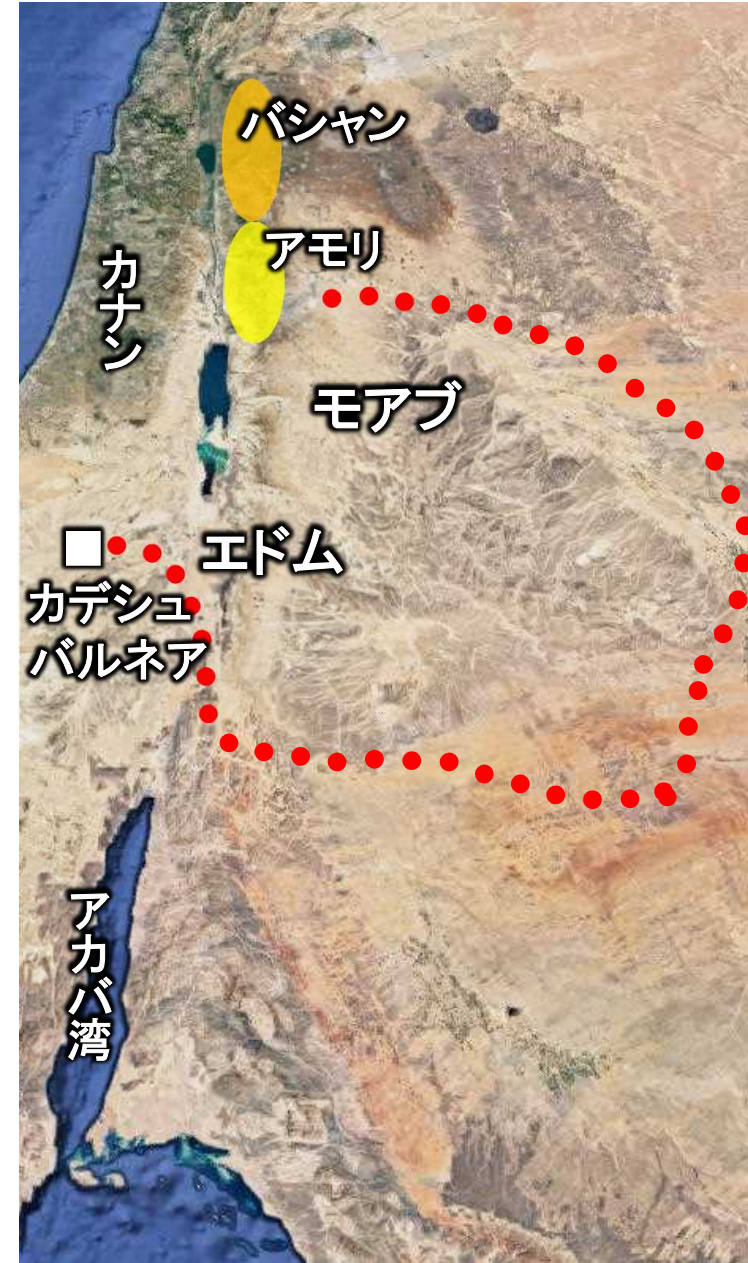
■ イスラエルは、モアブに隣接するアモリの王に使者を送った。

「王の道」と呼ばれる交易路だけを通ると。

■ 拒んだアモリと戦いになり、勝利したイスラエルは、広大な土地を手に入れた。

■ さらにイスラエルは、バシヤン*と戦い勝利を収めた。

* バシヤン ...現在のゴラン高原。



Ⅱ. バラムの預言

民数記22～24章



【恐怖に捕らわれるモアブの王】 民数記

■ イスラエルが、モアブとの和平を願っていた一方、モアブの王バラクは、恐怖に捕らわれていた。

「今、この集会は、牛が野の青草をなめ尽くすように、われわれの周りのすべてのものをなめ尽くそうとしている」

■ バラクは、ミディヤン人*と共に、ユーフラテス沿いのペトルにいた、同族の著名な呪術師、バラムのもとに、占い料を携えて使者を遣わした。

* ミディヤン人は、アブラハムの子孫。

➡ モーセの妻チツポラも同族。

(※ユーフラテスのハランには、アブラハムの親族がいた。ヤコブの舅ラバンは、偶像礼拝者だった。)



【バラムとバラクの交渉】 民数記22:8～21

■ 呪いでは、呪術師はまず、敵の守り神と取引をした。
イスラエルの神、主(ヤハウエ)は、バラムに語った。

22:9「あなたと一緒にいるこの者たちは何者か。」

■ イスラエルを呪ってはならないと言われたバラムは、
使者を追い返した。 ➡ 呪いの条件が成立しない。

■ バラクは、さらに高位の特使を派遣。報酬も増額した。

「たとえバラクが銀や金で満ちた彼の家をくれても、私は私の神、【主】の命を破ることは、事の大小にかかわらず、断じてできません。」

■ 本音では報酬に目がくらんでいたバラムに、主は、告げたことだけを行うよう、命じられた。バラムは出発した。

悪と悪との取引が
呪術の原則

神すら利用!!
バラムのあくどい
交渉術



【主の御使い】 民数記22:22～35

■ 神の怒りが燃え上がり、主の使い*が、抜き身の剣をもってバラムの前に立ちはだかった。 ➔ 受肉前のメシア

■ 察したロバは、道をそれた。主の使いが、石垣の間の狭い道に立つと、ロバは石垣に体を寄せ、バラムの足が押しつけられた。

さらに狭い場所で、主の使いを前に、ロバはうずくまった。怒ってむち打つバラムに、神がロバの口を開かれた。

「あなたにこのようなことをしたことがあったでしょうか。」

■ 目を開かれたバラムは、主の使いにひれ伏した。

「主の使いはバラムに言った。「その人たちと一緒に行け。しかし、わたしがあなたに告げることばだけを告げよ。」



呪術師バラムは、
驚かない！

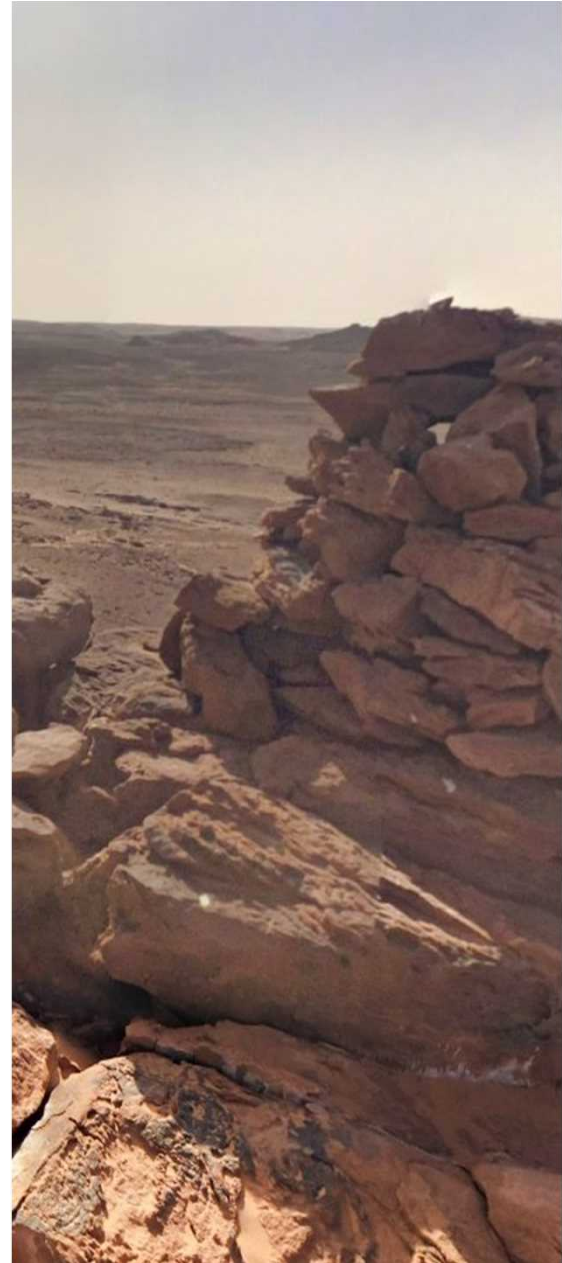
【モアブの地で】 民数記22:36～23:4

- バラムの到着を、バラク自ら迎えた。交渉に負け、内心面白くなかっただろうが背に腹は代えられない。
- 一方のバラムは、主に止められているのを承知しつつ、呪いのための儀式を行った。

23:4 神がバラムに会われたので、バラムは神に言った。「私は七つの祭壇を整え、それぞれの祭壇の上で雄牛一頭と雄羊一匹を献げました。」

➡ 主を礼拝する信仰者としてのささげ物ではなく、取引の材料、神への賄賂。

■ バラムは、言い訳の余地を作り、逃げ道を用意した。



【バラムの預言①】 民数記23:5～10

「バラクは、アラムから、モアブの王は、東の山々から私を連れて来た。『来て、私のためにヤコブをのろえ。来て、イスラエルを責めよ』と。

私はどうして呪いをかけられるだろうか。神が呪いをかけない者に。私はどうして責めることができるだろうか。

【主】が責めない者を。

岩山の頂から私はこれを見、丘の上から私はこれを見つめる。見よ、この民はひとり離れて住み、自分を国々と同じだと見なさない。

だれがヤコブのちりを数え、イスラエルの四分の一さえ数えられるだろうか。私が心の直ぐな人たちの死を遂げますように。私の最期が彼らと同じようになりますように」



イスラエルは、
聖なる民である

【バラムの預言②】 民数記23:13

■ バラクはバラムに抗議し、イスラエルの宿営の一部を見られる場所へバラムを連れて行き、再度呪わせた。

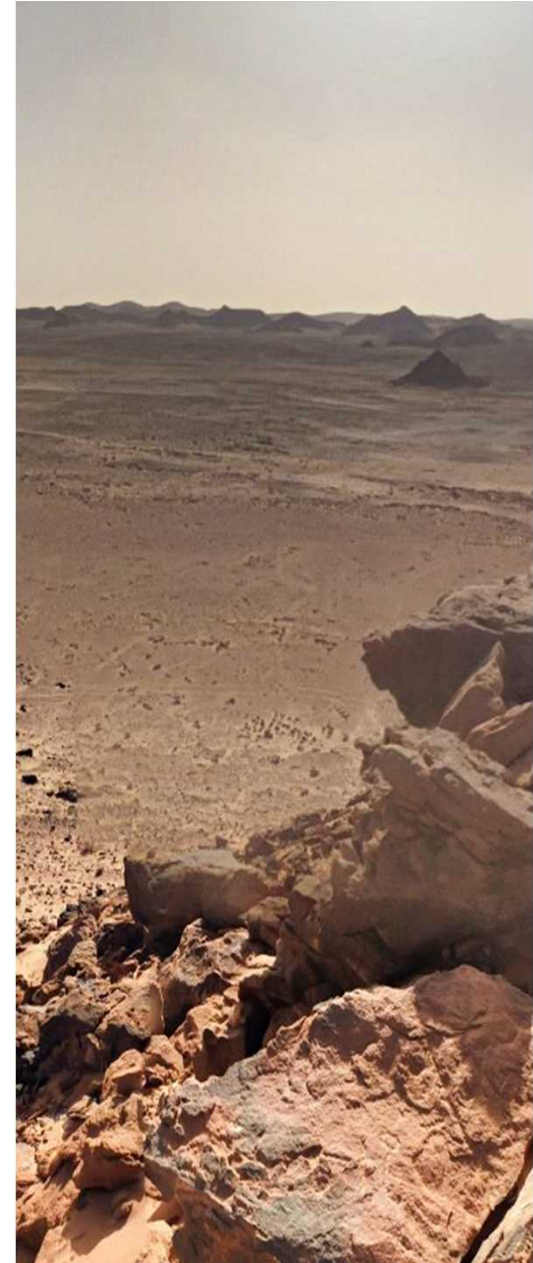
■ バラムは、またしても、主のみ告げを語った。

「立て、バラクよ。そして聞け。私に耳を傾けよ。ツイポルの子よ。

神は人ではないから、偽りを言うことがない。人の子ではないから、悔いることがない。神が仰せられたら、実行されないだろうか。語られたら、成し遂げられないだろうか。

見よ、私は、祝福せよとの命を受けた。神が祝福されたのだ。私はそれをくつがえすことはできない。」

➡ 不信仰者、呪術師バラムすら、神の御手の中にある。




【バラムの預言②】 民数記23:21～24

「23:21 ヤコブの中に不法は見出されず、イスラエルの中に邪悪さは見られない。彼らの神、【主】は彼らとともにおられ、王をたたえる声が彼らの中にある。

23:22 彼らをエジプトから導き出された神は、彼らにとって野牛の角のようだ。

23:23 まことに、ヤコブのうちにまじないはなく、イスラエルのうちに占いはない。神が何をなさるかは、時に応じてヤコブに、すなわちイスラエルに告げられる。

23:24 見よ、一つの民を。それは雌獅子のように起き上がり、雄獅子のように身を持ち上げ、休むことはない。獲物を食らい、殺されたものの血を飲むまでは。」



神がイスラエルを
聖なる者、
主の器とされている

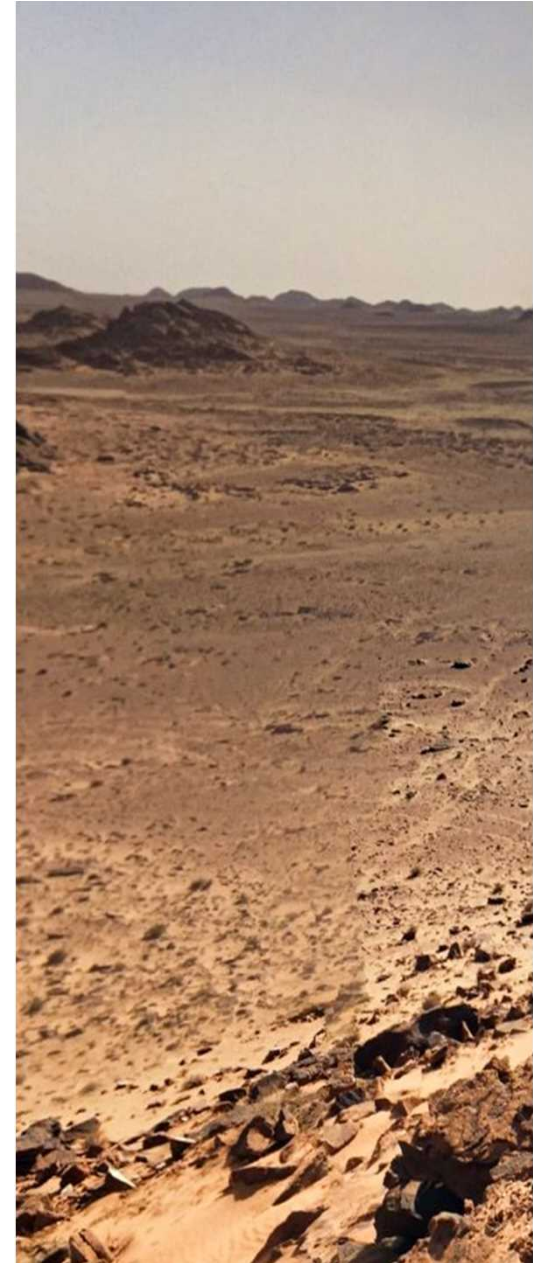
【バラムに下った聖霊】 民数記23:27～

■ バラクは、イスラエルを見渡せる、さらに高い地へバラムを連れていき、再度、呪術を行わせた。

バラムはイスラエルを祝福することが【主】の目にかなうのを見て、これまでのようにまじないを求めに行くことをせず、その顔を荒野に向けた。

バラムが目を上げると、イスラエルがその部族ごとに宿っているのが見えた。すると、**神の霊が彼の上に臨んだ。**

■ 呪いを告げようとして、祝福が口から出てきたバラム。しかし、三度目のこのときには、明確に聖霊が降った。





【バラムの預言③】 民数記24:3～9

「ベオルの子バラムの告げたことば。目の開かれた者の告げたことば。神の御告げを聞く者、全能者の幻を見る者、ひれ伏し、目の開かれた者の告げたことば。

なんとすばらしいことよ。ヤコブよ、あなたの天幕は。イスラエルよ、あなたの住まいは。

それは、広がる谷のよう、また川のほとりの園のようだ。

【主】が植えたアロエのよう、また水辺の杉の木のように。

その手桶からは水があふれ、種は豊かな水に潤う。王はアガグよりも高くなり、王国は高く上げられる。

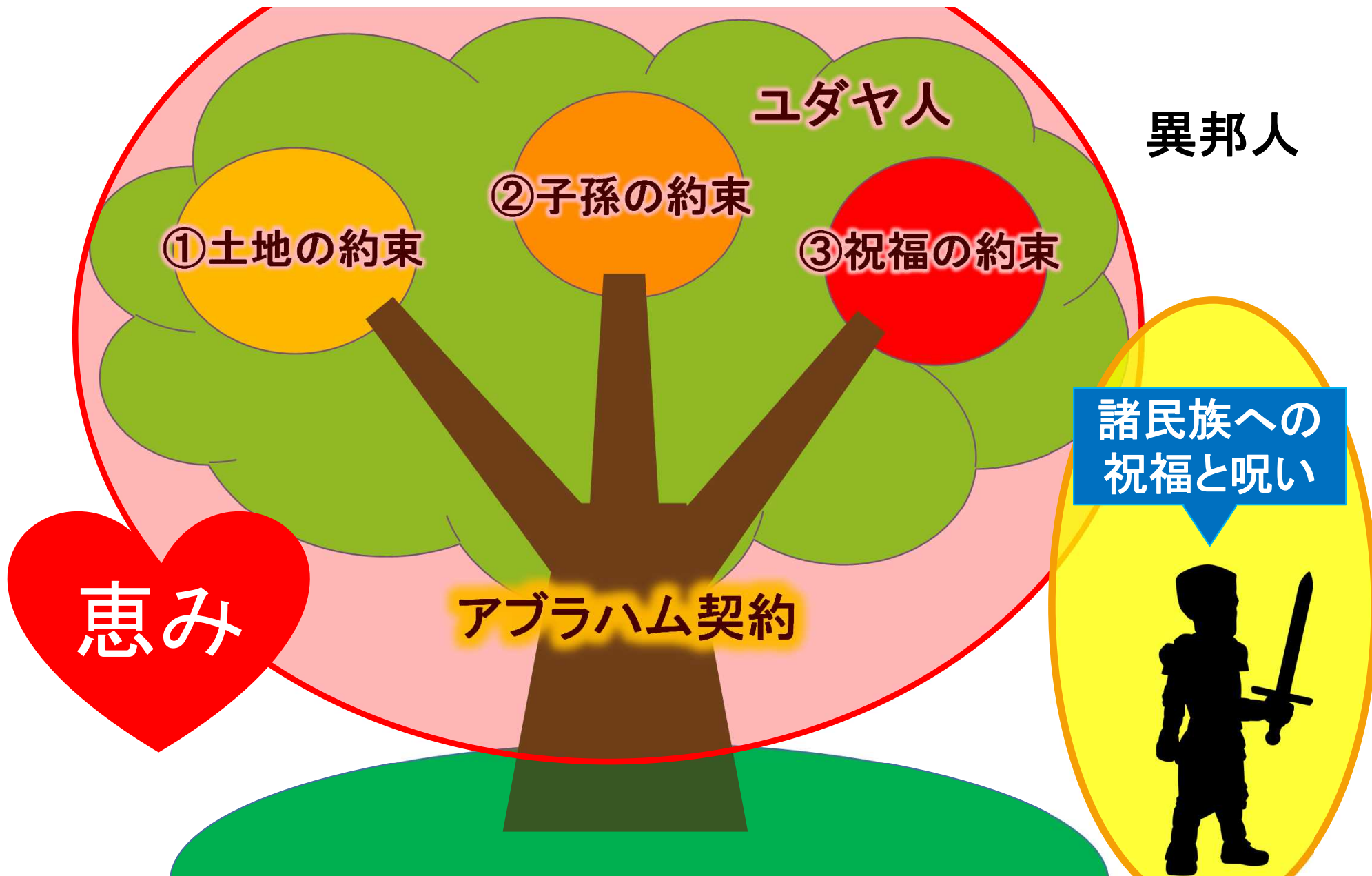
彼をエジプトから導き出された神は、彼にとっては野牛の角のようだ。彼は自分の敵の国々を食い尽くし、彼らの骨をかみ砕き、矢をもって撃ち砕く。

雄獅子のように、また雌獅子のように、彼は身を伏せ、横たわる。だれがこれを起こせるだろう。あなたを祝福する者は祝福され、あなたをのろう者はのろわれる。」



アブラハム契約の
付帯条項

【アブラハム契約】



【バラムによるメシア預言】 民数記24:10～19

■ 堪忍袋の緒が切れ、バラクはバラムに激怒した。

バラムは、最後の預言を告げた。

「ベオルの子バラムの告げたことば。目の開かれた者の告げたことば。神の御告げを聞く者、いと高き方の知識を知る者、全能者の幻を見る者、ひれ伏し、目の開かれた者の告げたことば。

私には彼が見える。しかし今のことではない。私は彼を見つめる。しかし近くのことではない。ヤコブから一つの星が進み出る。イスラエルから一本の杖が起こり、モアブのこめかみを、すべてのセツの子らの脳天を打ち砕く。その敵、エドムは所有地となり、セイルも所有地となる。イスラエルは力ある働きをする。ヤコブから出る者が治め、残った者たちを町から絶やす。」

メシア預言

すべての人は
セツの子ら!!
恵みへの
応答の責任が!!

【バラムによる諸民族への預言】 民数記24:20 ~

■ アマレクへの預言 ...「アマレクは国々の中で最高のもの。
しかし、その終わりは滅びに至る。」

■ 中東の諸民族へ ...「あなたの住みかは堅固で、あなたの
巢は岩間に置かれている。しかし、カインは滅ぼし尽くさ
れ、ついにはアッシュルがあなたを捕虜とする。」

(* アッシュル ...後のアッシリア、バビロニア。)

■ キティム(後のギリシャ、ローマ)への預言

「ああ、神が定められたなら、だれが生き延びられるだろう。
船がキティムの岸から来て、アッシュルを苦しめ、エベルを
苦しめる。これもまた、滅びに至る。」

■ 「バラムは立って自分のところへ帰って行った。バラク
も帰途についた。」⇒回心もなく、何も変わらない姿。



Ⅲ. バラムの罫

民数記25章



【モアブとの姦淫】 民数記25:1

- イスラエルは、モアブの娘たちと姦淫した。さらに、モアブの神バアル・ペオルへの偶像礼拝に陥った。背後には、バラムの悪知恵があった。(民31:16)
- 主の怒りが燃え上がり、背教者を殺すよう命じられた。
- この時、イスラエル人の男とミディアン人の女の姦淫現場を目撃した、祭司アロンの子エリアザルの子ピネハスは、槍をとって、この二人を突き刺して殺した。
「するとイスラエルの子らへの主の罰が終わった。」



性的姦淫は、
靈的姦淫
偶像礼拝に至る

【ピネハスに継ぐ祭司の系譜】 民数記25:9～15

■この時の裁きで、二万四千人が死んだ。

■ピネハスの怒りは、主の憤りにかなうものだった。

この後、ピネハスが、祭司の系譜を継ぐこととなった。

『見よ、わたしは彼にわたしの平和の契約を与える。

これは、彼とその後の彼の子孫にとって、永遠にわたる祭司職の契約となる。それは、彼が神のねたみを自分のものとし、イスラエルの子らのために宥めを行ったからである。』

■殺された男は、シメオン人の一族の長サルの子ジムリ。

殺されたミディアン人は、氏族の頭ツルの娘コズビ。



【ミディアン人への裁き】 民数記25:16～18

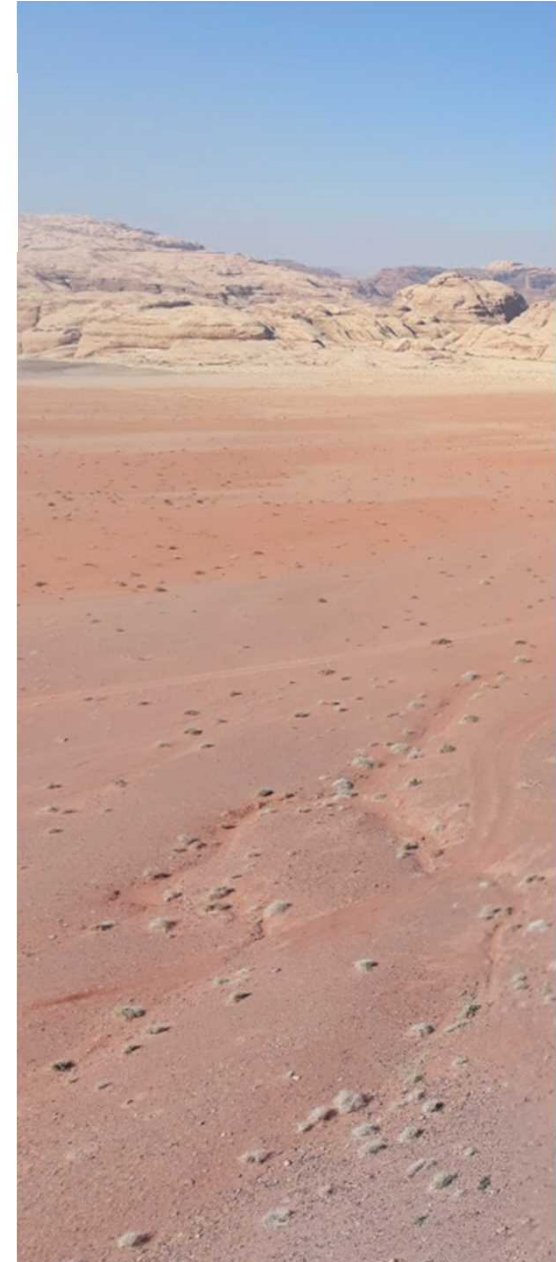
■ミディアン人も、モアブの誘惑に共謀していた。

【主】はモーセに告げられた。「ミディアン人を襲い、彼らを討て。彼らは巧妙に仕組んだ企みによって、ペオルの事件であなたがたを襲ったからだ。ペオルの事件の主の罰の日に殺された彼らの同族の女、ミディアンの族長の娘コズビの一件だ。」

■アブラハムの子孫ミディヤン人。祭司エウレルは、モーセの舅、その娘はチツポラ。

■しかし、反抗したミディヤン人は裁かれた。

主を知らされた者ほど、求められる責任は大きい。



IV. まとめと適用

祝福か 呪いか
求められる選択は、二つに一つ



【バラムの罪】

- バラムは、主を出会い、主の声を聞いた。全知全能の主を理解した。主に背くことはできないと、身をもって教えられた。
- にも関わらず、バラムは、主に従わなかった。主にひれ伏し、主の呼びかけに真摯に応え、主を知ろうとしなかった。
- 知的な理解が、救いにつながるとは限らない。罪人であるすべての人に求められるのは、神への個人的信頼。
- 自らの罪を悔い改めて、主を信頼する者が、救われる。

【アブラハム契約の付帯条項・「祝福と呪い」と異邦人の私たち】

■ バラムの件は、異邦人から見たイスラエル。私たちの視点そのもの。

「創12:3 わたしは、あなたを祝福する者を祝福し、あなたを呪う者をのろう。

■ この付帯条項は、神の民イスラエルを神が守るという約束。

“イスラエルにいいことしたら得するで” なんてもんでは決してない!!

神の約束は、バラムのような、人間の損得感情など寄せ付けない。

※)アブラハム契約で付帯条項しか語らない。➡バラムの罪!!

■ すべてのセツの民・罪ある人類に求められているのは、メシアへの信頼。

「創12:3 地のすべての部族は、あなたによって祝福される。」

【私たちの立つべきところ。変わらない、なすべき使命】

■ 混沌とした世界の影響は、キリスト教界にも及んでいる。
主イエスの預言通り、世界は、悪くなっていく一方だろう。

■ 何があろうと、私たちの立つべきは、メシアを信じる岩の上。
私たちが信じ、告げるべきは、主イエスの成し遂げられた福音。
“主イエス・キリストは、私の罪のために十字架にかけられ、
死んで葬られ、死を打ち破って復活された。”

■ 神のご計画の全貌を余すところなく解き明かしていこう。
その時、御霊が、私たちを助け、必要のすべてを満たしてくださる。
「マタ 6:33 まず神の国と神の義を求めなさい。
そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。」

「天のお父さま。

わたしは、御子(みこ)イエス・キリストが、

①わたしの罪(つみ)を贖(あがな)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信(しん)じます。

堅(かた)く、信仰(しんこう)の岩(いわ)の上に立(た)たせてください。

あなたを知(し)るよろこびで、この身(み)を満(み)たしてください。

福音(ふくいん)を告(つ)げ、御言葉(みことば)をあますところなく

解(と)き明(あか)かすべく、ここから、御霊(みたま)によって、

遣(つか)わしてください。

主(しゅ)イエス・キリストの御名(みな)によって祈ります。

アーメン」